

薬物療法は？

- 1, アンジオテンシン 抑制薬を第一選択薬とした十分な降圧療法
- 2, クレメジン(経口吸着炭; 腎毒性物質を吸着)
- 3, エリスロポエチン(造血ホルモン; 貧血の治療)
- 4, 重曹(体を弱アルカリに保つ、腎機能を守る)
- 5, 炭酸カルシウム(リンを吸着し、骨を丈夫にする、腎機能を守る)
- 6, 高尿酸血症治療薬(ザイロリック、ユリノーム)
- 7, 脂質代謝異常改善薬
- 8, その他

薬は腎不全となった元の病気や腎不全の程度、年齢や合併症などによって異なります。誤解を招くといけないので、ここではごく一般的な話にとどめ、詳しく述べません。勝手な判断で薬を飲んだり、止めたりするのは非常に危険です。疑問のある方は、必ず主治医に相談しましょう。

1, アンジオテンシン 抑制薬(降圧薬の一種)

腎不全の方には高血圧が多く、高血圧は腎臓に最も悪い、という話をしました。ではどの程度の血圧が良いかというと、最近では130/80mmHg以下、尿タンパクの多い患者さんでは125/75mmHg以下という低い血圧が良いとされています。もちろん動脈硬化の強い高齢の患者さんなどでは、あまり下げすぎると脳梗塞の原因となりますから、患者さんによって異なります。このような低い血圧に下げるには塩分の制限だけでは困難な事が多く、降圧薬が必要となります。しかし降圧薬の種類は様々で、それぞれに特徴があります。特に腎機能を保護する作用の強いものにアンジオテンシン変換酵素阻害薬、アンジオテンシン受容体拮抗薬などのアンジオテンシン という腎臓に悪い物質を押さえ込む薬があります。しかし血圧を下げる作用はあまり強くないので、他の薬を併用する事が多いのが欠点です。また、このような薬は腎臓を休ませる作用があり、使用すると当初腎機能は低下します。従って腎機能がかなり悪い(クレアチニンクリアランスが30mL/分以下)患者さんでは使いにくいのも欠点です。

2, クレメジン

腎不全になると様々な毒素が体にたまります。毒素の中には腎臓を悪くするものもあります。クレメジンという薬はこの毒素を吸着して、腎不全の進行を抑制するために開発されました。しかし飲みづらいこともあって、なかなか普及していないのが実態です。

3, エリスロポエチン

腎臓は造血ホルモン(エリスロポエチン)を産生しています。腎不全になるとエリスロポエチンの産生も低下し、貧血になる患者さんが多くみられます。しかし近年エリスロポエチンが薬として使えるようになり、貧血による症状の改善が可能になっています。また最近エリスロポエチンで貧血を改善すると、腎機能にも良いことが示されつつあります。

その他、様々な薬が腎臓に良い事が証明されています。

民間療法の怖さ

腎臓に良いという民間薬がたくさん紹介されていますが、腎不全に効く事が証明されている薬はありません。逆に変な民間薬で腎機能が低下することもあります。絶対、民間療法を行ってはいけません。